

2-4. 豊田市

No.	4	豊田市
-----	---	-----

1. 取組の全体像						
1. 自治体の概要						
①	自治体名	豊田市		②	担当部局名	福祉部 よりそい支援課
③	人口	414,502 人<令和7年1月1日時点>				
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)		福祉部 よりそい支援課		
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	よりそい支援課が中心となって複合的な課題を抱える住民の状況や相談内容を把握し、庁内外で積極的な情報共有を実施		
		庁内連携部局(メンバー)		福祉部のほかの課、こども・若者部、保健部、地域振興部、生涯活躍部、美術・博物館(重層定例会に参加する課)		
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	誰もが孤独・孤立になり得ることへの理解を深め、全庁的に孤独・孤立の視点を取り入れて住民と接する意識を醸成し、情報共有を実施		
2. 形成をめざす地方版連携PFの姿						
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	- 複合的な支援を必要とする対象者に向けた包括的相談事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業、多機関協働事業、参加支援事業、地域づくり事業を、重層的支援体制整備事業として令和3年度から実施している。 - 令和5年度には「地域共生社会推進全国サミット in とよた」において、「地域共生社会推進全国サミットとよた宣言」として、『おたがいさま』と言えるコミュニティ、つまり『人や活動、地域などのつながり合い』を、新たな形で取り戻すこと」を提唱した。 「企業城下町」である豊田市には、身寄りを頼ることができない人が多く、そうした人への支援に向けて支援時のコツやノウハウなどをとりまとめた「支援のレシピ集」を作成した。				
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		(対市民)特に①潜在的な対象者の支援に向けて、「孤独・孤立」についてまずは市民に広く知ってもらうこと(+②市民が孤独・孤立について理解している状態を目指す第一歩としても、カードゲームを活用した広報を行う) (PF内)これまで「空想ファクトリー」やその前身の勉強会の場で、流動的につながってきた関係者・住民に対して、PFというまとまり意識を持ってもらうことで孤独・孤立対策における一層の活動連携を促進すること (庁内)福祉部に限らず全庁で「つながるCredo(孤独・孤立対策の考え方)」を通した、孤独・孤立の問題や取り組むべき姿勢などについて共通認識を持つこと		
		最終的なゴール		③孤独・孤立を含む支援を必要とする人に対しては支援が継続的・長期的に行われる状態を、①に対しては「多様なつながり」を自由に選択できる状態を目指す(③については主に重層事業で、①については孤独・孤立対策として取り組む) ②市民の孤独・孤立に対する理解を醸成し、①③への支援に役立てるため、「豊田市民みんなが『孤独・孤立』に対する理解を深めている状態」を目指す		

3. 地方版連携PFにおける連携体制			
①	地方版連携PF	立ち上げ年度	令和6年度
		参画メンバー	地域の「つながりづくり」に取り組む「とよた多世代参加支援プロジェクト」等を中心に据える。
		選出・打診時の工夫	「つながりづくり」に取り組む団体や重層関係の団体をコアに据えつつ、それ以外の団体も広く参加してもらえるように、PFは会員制をとらず、参加したいと思った人が自由に出入りできるように設計。
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	未定(地域協議会を独立させて設置はしないが、会議の場として「支援会議定例会」を活用予定。詳細は後述)
		参画メンバー	重層の「支援会議定例会」参加団体(※参加者の詳細は、次ページの図の通り)
		選出・打診時の工夫	地域協議会／「支援会議定例会」という2つの会議体の重複を避ける。定期的な事業報告に加えて、必要なときに「支援会議定例会」にて孤独・孤立を1つの議題として扱うことで、実質的には「支援会議定例会」が地域協議会の役割を果たす。
4. PF連携による価値や工夫_考え方			
- 重層の「支援会議定例会」と、市内で月例開催される「空想ファクトリー」という市民同士の勉強・交流の場(市内の活動団体関係者や一般市民が集い、地域をよくするためのディスカッションや交流を行う場)の参加者・運営者を中心に据え、PFは会員制をとらないゆやかな形をとる。 - 上記により、必要なときに関係する団体がつながれるようにし、なおかつ日常では各自が「孤独・孤立」という観点を意識して、住民の見守りやそのほかの活動を行ってもらうために、PFという枠組みを位置づける。 「地域のために何かしたい」と日々考えている住民もPFの一員にもなり得るという考え方から、メンバーが流動的に出入りするPFである点を生かして、住民もPFの一員として参加することが可能なPFの設計とする。そのためにも住民自身が、孤独・孤立に対する基礎理解を深めていくことは重要であり、今年度は孤独・孤立について全く知らない市民が楽しく学んでもらうためのツール(=カードゲーム)を通した啓発を行う。			

(※参考)令和6年度 豊田市重層的支援会議定例会 関係機関一覧

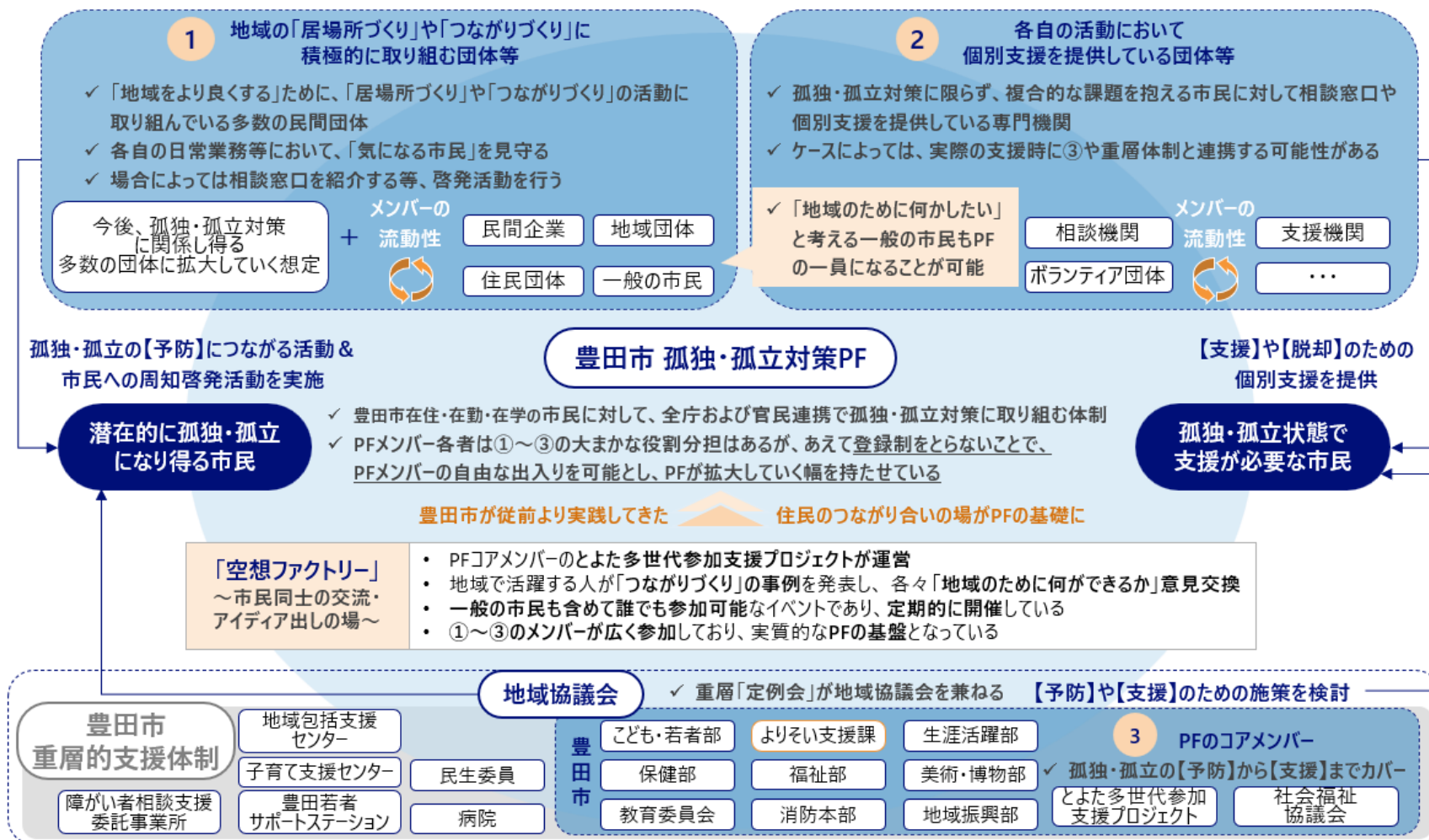
主として個別支援に関する所属			
福祉部	よりそい支援課	管理職級	課長
			副課長
		主査監	主査監
			担当長
		担当者級	担当長
			主事
	生活福祉課	管理職級	副課長
		担当者級	主査
	障がい福祉課	管理職級	副課長
		担当者級	主査
	高齢福祉課	管理職級	副課長
		担当者級	担当長
こども・若者部	こども・若者政策課	管理職級	副課長
		担当者級	主事
	こども家庭課	管理職級	副課長
		担当者級	主査
保健部	保健支援課	管理職級	副課長
		担当者級	担当長
教育委員会	パルクとよた	管理職級	指導主事
		担当者級	スクールソーシャルワーカー

主としてつながり合い創出を含む地域づくりに関する所属			
福祉部	地域包括ケア企画課	管理職級	副課長
		担当者級	主査
こども・若者部	保育課	管理職級	副課長
		担当者級	担当長
保健部	健康づくり応援課	管理職級	副課長
		担当者級	担当長
地域振興部	地域支援課	管理職級	副課長
生涯活躍部	市民活躍支援課	管理職級	副課長
美術・博物部		管理職級	館長

その他必要な支援機関等			
社会福祉協議会	共生推進課	管理職級	副課長
		担当者級	出張所長
	くらし応援課	管理職級	副課長 成年後見支援センター長
とよた多世代参加支援プロジェクト（から2名）		—	—
		—	—
消防本部	（北）管理課	担当者級	担当長
		担当者級	消防士長

2. 連携PFイメージ

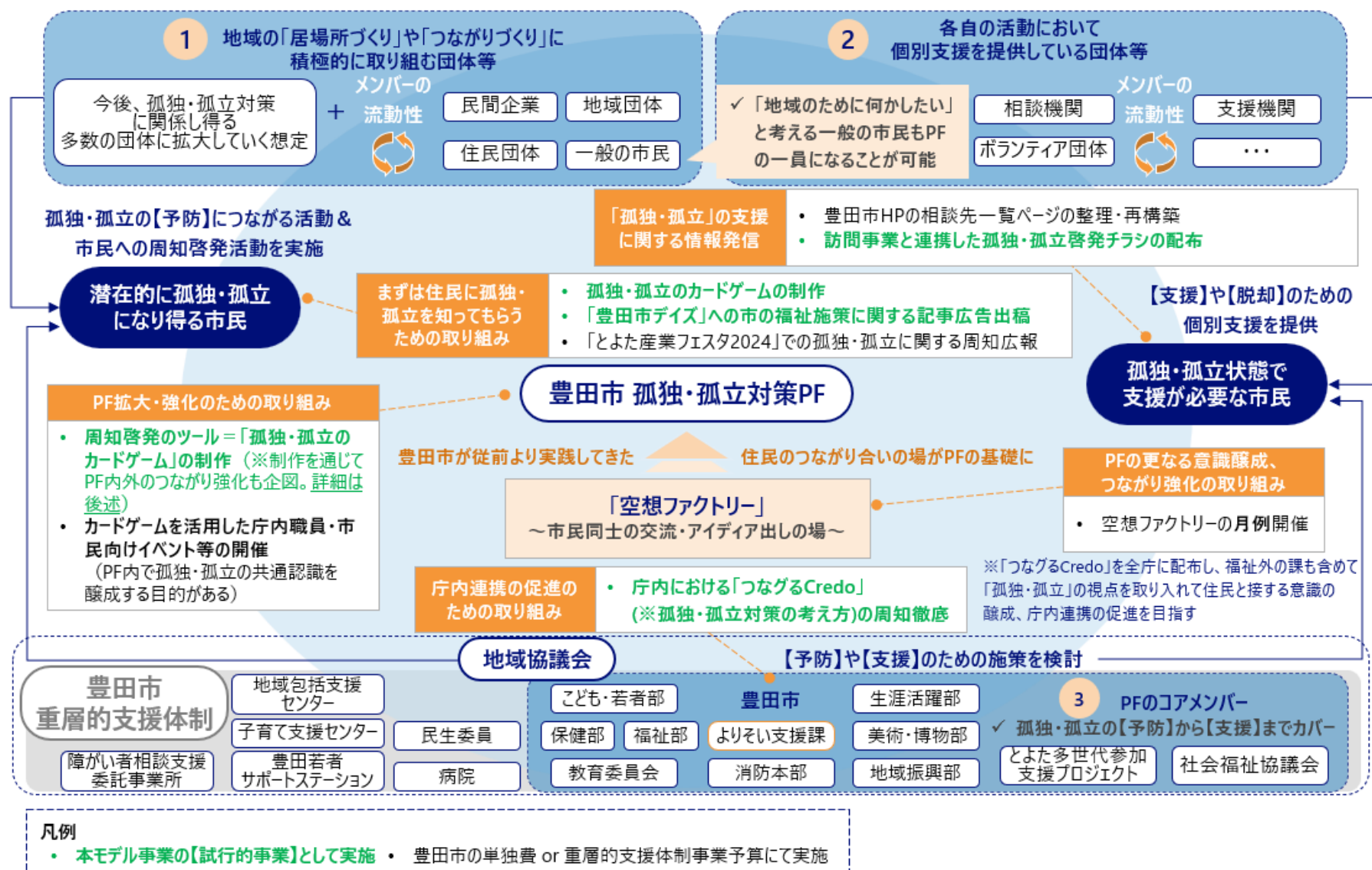
5. 連携PFのイメージ図



凡例

- ← プレイヤー間の連携内容や情報のやり取りなど
- ✓ 各プレイヤーの活動趣旨、内容など

【参考資料】今年度の豊田市の取組み(本モデル事業の試行的事業含む)とPFの関係



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		孤独・孤立対策を「支援」と「予防」に分け、「支援」は重層的支援体制の中で抜け漏れなく支援を強化することを目指す。一方で主に孤独・孤立の「予防」に資する取り組みの手始めとして、試行的事業にて市民向けの周知啓発を中心に実施する。			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	職員の理解促進と庁内連携促進のための広報物作成	全庁的に各課が各自の業務に孤独・孤立対策の視点を入れて、個別課題の解決とともに孤独・孤立の解消に取り組むことを推進するため、豊田市の孤独・孤立対策基本方針の心構えを記載した「つなぐるCredo」を作成し、全職員に配布した。	「つなぐるCredo」を全職員に配布することで、孤独・孤立に対する豊田市職員の基礎的な理解力を底上げし、分野をまたいで全庁的に孤独・孤立対策に取り組むことの重要性を認識してもらうこと	- デザイン・印刷：1月中 - 配布時期：2月上旬の庁内の部長会議にて配布・説明	デザイン、印刷：株式会社こいけやクリエイト（約40万円）
			成果検証結果	✓ 全職員 6,200 名に配布・携帯を依頼した ✓ 福祉分野外の職員にも孤独・孤立について理解してもらうきっかけや、普段の業務に孤独・孤立対策の観点を取り入れてもらうきっかけとなった	
②	孤独・孤立に関する理解促進ツールの企画・制作	- 孤独・孤立に関する理解を促進するためのツールとして、老若男女が楽しみながら孤独・孤立について学ぶことができる「孤独・孤立の当事者体験カードゲーム」(名称:「コドクエ」)を制作した。 - 豊田市よりそい支援課、当事者支援団体に知見を持つ合同会社なんつな(共同制作者)、そのほか地域の福祉関係者へのヒアリングを通じて、カードゲームによって住民にどのようなメッセージを伝えていくか整理した。今年度はまず、その結果を反映させたカードゲームの試作品を作成し、一般の市民を含む協力者との意見交換(複数回)やテストプレイを経て、ブラッシュアップした。	- だれでも孤独・孤立になる可能性があることを、カードゲームを用いて「楽しく」住民に知ってもらうこと。 - 制作過程で、孤独・孤立の問題に関する一層の理解や、今後アプローチしたい住民像への共通認識を深めること。	- 意見交換・テストプレイ：12月 - カードゲーム：2月末完成	カードゲーム制作：株式会社カヤック(約300万円)
			成果検証結果	✓ テストプレイを通して、参加者間で孤独・孤立の地域課題や、アプローチすべき住民像に関する共通認識が醸成された ✓ 意見交換会・テストプレイには各回およそ20人が参加した	

③	孤独・孤立に関する理解促進イベントの開催	・ 上記のカードゲームをツールとして、まず今年度は①職員向け研修、②市民向けの孤独・孤立に関する理解促進イベントを開催した。①②においては、実際に完成したカードゲームを用いて、孤独・孤立についての理解を深めてもらった。 ・ また、今後もカードゲームを用いた中長期の普及啓発活動を計画しており、来年度以降も③市民向け体験イベント、④中学校への出前講座などのイベントを開催する予定である。	・ 福祉分野以外の支援団体や地域関係者に、孤独・孤立の問題について認知してもらうこと。 ・ 地域の「つながりづくり」に今後取り組む市民を増やすこと、「つながりづくり」に資する活動が増えていること。(中長期的な目標)	・ 職員向け研修: 2月27日 ・ 市民向けイベント: 2月27日	イベントの開催費用等 (※本事業は、豊田市の単独費で実施した)
			成果検証結果	✓ 福祉分野外の職員も、孤独・孤立を知ってもらうきっかけとなった ✓ 参加した市民の約78%が「ゲームでのつながりづくりの体験を通して、つながり方の理解ができた」と回答した	
④	「豊田市デイズ」への記事広告出稿	・ 東海エリアを中心に販売されている雑誌である「豊田市デイズ」に、本モデル事業の試行的事業を含む、豊田市の孤独・孤立対策や福祉施策に関する記事広告を4ページ出稿した。 ・ その掲載内容を抜き刷りして、パンフレットとして10,000部印刷した。	・ 豊田市が現在実施している多数の福祉政策(孤独・孤立対策を含む)を、改めて棚卸すること。 ・ 市民に、「空想ファクトリー」という市民同士の交流・学び合いの場(=豊田市のPF)があることや、孤独・孤立について学べるカードゲームを作成したこと、市内にどのような支援先・相談先があるかを知ってもらうこと。	✓ 記事内容検討: ~1月 ✓ 抜き刷り印刷: 2月末 ✓ 雑誌の出版: 2月末	・ 記事作成・出稿、抜き刷り: 株式会社ネオパブリシティ(約50万円)
			成果検証結果	✓ 市民向けに、豊田市が現在実施している多数の福祉政策(孤独・孤立対策も含む)について、分かりやすく説明できた ✓ 記事を読んだ市内職員から、「豊田市なら安心して暮らせる」、「どんな悩みも相談できることがわかり安心できた」等の感想を得た	

⑤	孤独・孤立に関する普及啓発チラシ配布	- 市民向けの周知啓発のため、孤独・孤立による悩みに応じた豊田市内の相談機関を記載したチラシを作成した。 - 重層の「支援会議定例会」参加団体や市内の支援機関等に配布した。	一般の市民向けに、わかりやすく「孤独・孤立」という状態について伝え、支援が必要になったときに支援機関とつながることができるよう、豊田市内の支援先の情報等を集約して伝えること	✓ チラシの内容検討：12月 ✓ デザイン・印刷：1月 ✓ 訪問事業等での配布：2月以降	チラシのデザイン・印刷：株式会社こいやクリエイト(約10万円)
			成果検証結果	✓ 市内の支援機関 2 箇所に各 100 部設置・配布した ✓ 重層の「支援会議定例会」で掲載内容を協議し、支援を必要としている人や、今後潜在的に孤独・孤立に陥る可能性がある人に、どのような支援先等があるか、制作過程において庁内で情報を整理できた	

7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ 今年度制作したカードゲームを活用して、市民向けの孤独・孤立の理解促進イベント(カードゲーム体験イベント)の継続実施、市内の中学校における孤独・孤立の出前講座を予定
- ・ 「つながりづくり」を促進する「空想ファクトリー」及びその SNS・WEB 広告出稿を、今年度の取組結果を踏まえながら毎月継続して実施予定

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

ヒアリングを実施した支援団体から、「自分たちが普段やっていることが孤独・孤立対策だと思っていなかったが、豊田市が今年度から本格的に孤独・孤立対策に取り組み始めたと聞いて、自分たちの活動が実は豊田市の孤独・孤立対策につながっていると感じた」、「豊田市でゼロから孤独・孤立の取り組みが始まったというよりも、豊田市は以前からすでに積極的に地域づくりに取り組んでいる印象がある」等の反響が得られた。

4. 連携PFの行程および実務上の留意点

【PF立ち上げまでの行程】※令和6年度から本格的に孤独・孤立対策を実施

過年度

	(イ)準備段階	
H30 年度～	地域の現状把握	■「企業城下町」の豊田市では、単身で転入してきた人が高齢者になったとき、孤独・孤立に陥りやすいという傾向が従前から浮き彫りに <u>なっていた</u>

令和6年度

	(ア)初期段階	
4月～	主担当部署の設定	■「誰一人取り残さない」を実現するために、「よりそい支援課」が担当課に決定
4月～	担当者の初動	■国の動きと市内事例を情報収集し、「孤独・孤立対策はすべての行政事業に通じる」という視点を発見
	(イ)準備段階	
4月～	取組テーマ決定	■「支援」と「予防」の両輪で孤独・孤立対策を推進。 既存事業との重複を避けながら柔軟な方針を展開
8月～	連携PFの企画・設計	■市民参加型の「空想ファクトリー」を豊田市のPFと位置づけ、参加者同士の有機的なつながり重視
8月～	関係団体のリストアップ(庁内)	■特定の課に限定せず、全庁での孤独・孤立対策の意識定着を重視
	関係団体のリストアップ(庁外)	■「つながりづくり」に関わる様々な属性の人々をPFに巻き込む ■多様な市民活動に取り組む民間団体が、「つながりづくり」のキーマン
	(ウ)設立段階	
8月～	域内住民・団体への情報発信	■「楽しく自然に知ってもらう」 —カードゲームを活用した孤独・孤立対策の新しい広報手法
8月～	連携PFの運営	■「地域のために何かしたい」と感じている活動者や市民を、今後も積極的に孤独・孤立対策に巻き込んでいく
	(エ)自走段階	
今後	地域協議会の設置	■重層的「支援会議定例会」を活用して、地域協議会の役割を果たしていく
	PFの拡大・活性化	■みんなが「当たり前」に、孤独・孤立対策に取り組んでいる状態を目指す

【それぞれの段階での留意点】

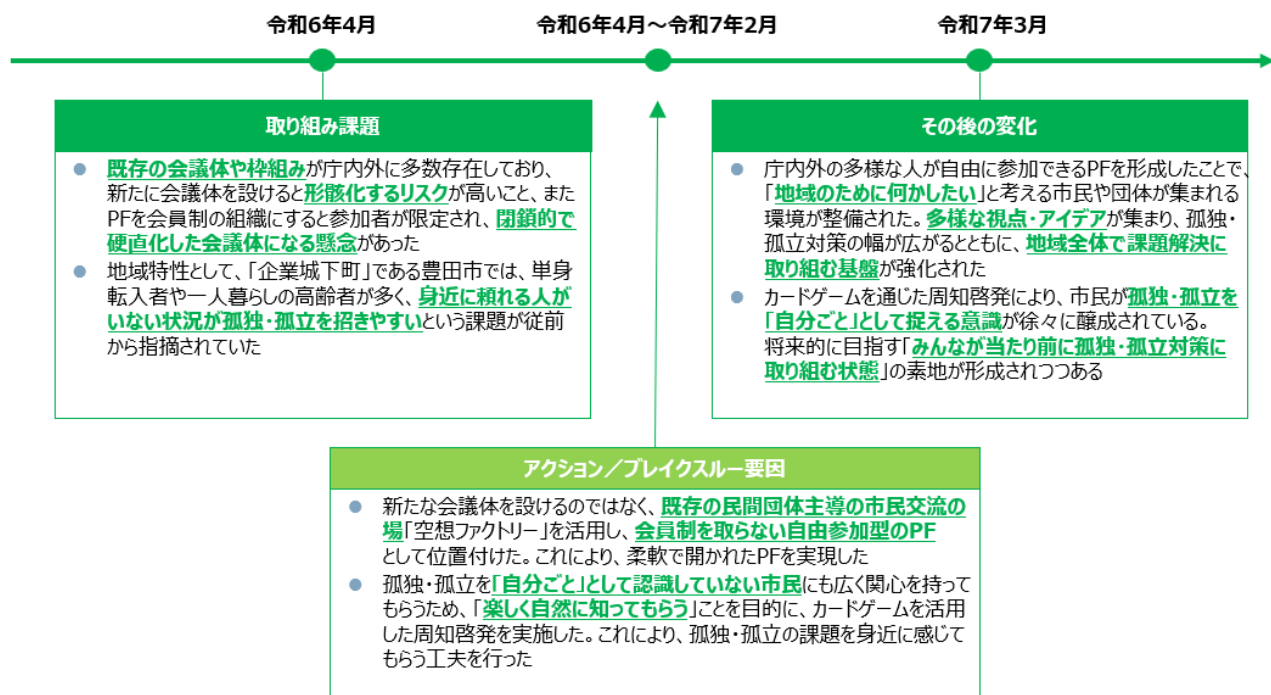
(ア) 初期段階		
①	主担当部署の設定	■「誰一人取り残さない」を実現するために、「よりそい支援課」が担当課に決定 令和6年4月1日の孤独・孤立対策推進法の施行に合わせ、豊田市としても改めて「孤独・孤立」を1つのテーマとしてとらえ所管課を検討した結果、「誰一人取り残さない施策の総合調整」をミッションとする、よりそい支援課に決定した。
②	担当者の初動	■国の動きと市内事例を情報収集し、 「孤独・孤立対策はすべての行政事業に通じる」という視点を発見 - まずは孤独・孤立に関する国の動きのキャッチアップを行った。また、庁内や市内の民間団体において先進的な孤独・孤立対策の取り組みを行っている事例がないか、情報収集した。 - 孤独・孤立対策を掲げる事例は少なかったが、人やまちをつなげるという意味で、「あらゆる行政事業は孤独・孤立対策に通じている」という考えに至った。

(イ) 準備段階		
③	地域の現状把握	■「企業城下町」の豊田市では、単身で転入してきた人が高齢者になったとき、 孤独・孤立に陥りやすいという傾向が従前から浮き彫りになっていた - 平成30年に実施した地域福祉計画策定に際する市民意識調査では、「身近に自分を支えてくれる人がいるか」という意識について調査し、「身寄りを頼ることができない人」に関する問題意識は、庁内で共有されていた。 - 中でも、一人暮らしの高齢者は「支えてくれる身近な人」がいないという点で支援を強化する必要性を感じており、令和元年には「身寄りを頼ることができない方に対する支援のレシピ集」を作成した。
④-1	取組テーマ決定	■「支援」と「予防」の両輪で孤独・孤立対策を推進。 既存事業との重複を避けながら柔軟な方針を展開 - 孤独・孤立に関する取り組みを「支援」と「予防」とに分け、「支援」に資する取り組みは重層事業で、「予防」に資する取り組みは孤独・孤立対策事業として実施する方針とした。 「予防」として特に、庁内外での周知啓発は重層事業では十分ではないため、既存事業との重複を避けながら「支援」と「予防」の両面で、孤独・孤立対策を捉えている。
④-2	連携PFの企画・設計	■市民参加型の「空想ファクトリー」を豊田市のPFと位置づけ、参加者同士の有機的なつながり重視 - 重層事業を含め様々な枠組みで既存の会議体が複数存在している中、PFを新たに設置し会員制をとると、豊田市では形骸化すると考えた。 - 会員制は採用せず、市民が出入り自由で有機的につながることができる「空想ファクトリー」という場を、豊田市の開かれたPFとして位置付けた。
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	■特定の課に限定せず、全庁での孤独・孤立対策の意識定着を重視 「あらゆる行政事業は孤独・孤立対策に通じている」という考えから、特定の課との連携をあえて焦点化することはしていない。 - 孤独・孤立対策という観点を広く庁内で周知することで、孤独・孤立対策の観点を意識する課を徐々に増やしていく予定である。
		■「つながりづくり」に関わる様々な属性の人々をPFに巻き込む - PFの参加者の属性を、①地域のつながりづくりに取り組む人、②実際に個別の支援活動を行っている人、③PFのコアメンバー（予防から支援までカバーし行政とも関係が深いメンバー）と幅広く捉え、これらの人々が関わり合うことが豊田市の孤独・孤立対策＝「つながりづくり」につながると考えた。 ■多様な市民活動に取り組む民間団体が、「つながりづくり」のキーマン - 普段から行政と関わりが深い民間団体の中でも、特に福祉サービス以外の領域に取り組んでいる団体がキーマンであり、多様な市民活動を通して「行政では手が届きにくい領域」を推進する民間団体をPFのコアメンバーととらえている。

(ウ)設立段階		
⑥	域内住民・団体への 情報発信	■「楽しく自然に知ってもらう」 ーカードゲームを活用した孤独・孤立対策の新しい広報手法 ・ 孤独・孤立という概念を知らないという人にも知ってもらい、自分や周りの人の困りごとに日常で目を向けてもらうために、「孤独・孤立対策」という言葉を使わずに、「楽しく自然に知ってもらう」ことを重視した。 ・ その手段の一つとして、カードゲームで当事者体験をしてもらうことを企画した。実際に自分や周りの人が孤独・孤立になった時に思い起こしてもらえよう、「つながりの大切さ」や相談できる人や場所が地域にあることを、ゲーム中で印象付ける工夫を行った。
⑦	連携PFの運営	■「地域のために何かしたい」と感じている活動者や市民を、 今後も積極的に孤独・孤立対策に巻き込んでいく ・ PFという場所を通じて、「つながりたい」と思ったときに人や団体とつながってもらうことを目指す。 ・ 今後もPFとしての会議体を設置することはせず、市民同士の勉強・交流の場である「空想ファクトリー」で市民が自由に集まって、地域をよりよくすることを考えてもらう仕掛けを継続する。

(エ)自走段階		
⑧	地域協議会の設置	■重層の「支援会議定例会」を活用して、地域協議会の役割を果たしていく ・ よりよい支援課を含め、庁内の関係課や支援活動を行う民間団体が多数参加する「支援会議定例会」にて、今後も孤独・孤立を1つの議題として扱い、問題意識を共有していく。 ・ これを通じて、地域協議会としての役割を果たしていく予定である。
⑨	PFの拡大・活性化	■みんなが「当たり前」に、孤独・孤立対策に取り組んでいる状態を目指す ・ 今後もPFの参画者に、普段実施している活動を孤独・孤立対策に結び付けながら推進してもらうことで、地域で活動する人が当たり前日常的に孤独・孤立対策に取り組んでいる状態を目指していく。 ・ 来年度以降は、孤独・孤立の「予備軍」の人に対する支援や予防を目的に、相談窓口に来られない人にも支援が届くような仕組みを進めたいと考えている。例えば、今年度試験的に行ったメタバース空間での交流イベントを、定期的実施することを検討している。

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	■既存の場を活用した自由参加型PFの形成とカードゲームによる啓発で、<u>孤独・孤立を「自分ごと」にする意識を醸成</u> ・ 豊田市では、既存の会議体が複数存在することや、地域特性による孤独・孤立の課題が指摘されていた。 ・ そこで、新たな会議体を設けるのではなく、既存の市民交流の場を活用した自由参加型のPFを構築した。さらに、カードゲームを用いた周知啓発により、市民が孤独・孤立を「自分ごと」として捉える意識を醸成した。 ・ その結果、多様な人々が集まりやすい環境が整備され、地域全体で孤独・孤立対策に取り組む基盤が強化されつつある。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～

とよた多世代参加支援プロジェクト

- ・ 「とよた多世代参加支援プロジェクト」は、令和2年4月に設立された任意団体で、豊田市内の約100の支援機関や企業、農家、個人事業主などが参加している。地域の課題を探索し、孤独・孤立を含む多様な困りごとを解決するための「つながり合い」を生み出すことを目的としている。
- ・ 活動としては、困りごとを抱える人と解決したい人をマッチングする活動や、定期的な勉強会、市民・事業所への啓発事業を行っている。また、地域の人々が自由に話し合い、交流できる場「空想ファクトリー」を運営し、地域全体で支え合う「つながり合い」の仕掛けを進めている。

💡「困っている人」「やりたい人」「できる人」をつなぐー日常の雑談で得た深いニーズを生かす仕組み

- ・ 地域の困りごとやニーズを解決するためには、「困っている人」「何かをやりたい人」「スキルやリソースを提供できる人」をつなぐ仕組みが重要である。これらの人々を結びつけることで、孤独・孤立の解消だけでなく、地域全体の活性化にもつながると考えている。
- ・ 例えば、以前、「子育て支援センター」の運営者から「子育て支援だけでなく、お母さんたちのキャリアアップにつながる活動も合わせてできないだろうか」という「モヤモヤ」の共有があった。これを受けて「モヤモヤ」を共有する機会をつくり、一緒に「モヤモヤ」を整理しながら、それぞれに何ができるかをイメージする場を作り出した事例がある。
- ・ 地域で活動する人々が持つアイデアや課題意識の中には、一人では実現が難しいものもある。とよた多世代参加支援プロジェクトは、そうした思いを受け止め、関係者を集めて意見を出し合いながら、実際の活動へと結びつけている。こうした取り組みは、当事者の希望を実現するだけでなく、地域全体のつながりを強化するきっかけにもなっている。
- ・ また、デイサービス利用者の「普段は家にこもっていることが多いけれど、絵を描くことは好き。自分の絵を展示して、他の人から感想をもらいたい」という声をケアマネージャーが拾い上げ、地域の関係者と協力して実現した事例もある。当事者のニーズを聞き取っても、自分一人では対応できないことや業務範囲を超えることについて、持ち寄れる場が必要である。そのための仕組みとして、とよた多世代参加支援プロジェクトが形成するつながりを生かしてもらい、地域のリソースを最大限活用して実現してもらいたいと考えている。
- ・ そして、こうしたニーズの発見は、日常の雑談や何気ない会話の中から偶発的に生まれることが多い。特に、本人が「困っていない」と感じている場合や、悩みを開示することに抵抗を感じている場合には、雑談を通じて深い部分にある本当の困りごとを探ることが重要である。雑談をきっかけに、当事者の声を丁寧に拾い上げ、それを地域の力で形にしていくプロセスが、孤独・孤立の解消において大きな役割を果たすのではないかと考えている。

💡 行政の枠を超えた柔軟な活動と情報共有の重要性

- ・ 民間団体が多数集まっているとよた多世代参加支援プロジェクトは、行政の制度や管轄の枠組みにとらわれず、地域全体で課題解決に取り組んでいる。とよた多世代参加支援プロジェクトとしてやりたいこと・やろうとしていることが、結果的に、行政が対応しきれない部分を補完する形になることも多い。
- ・ 生活困窮者支援調整会議や重層支援会議に参加する等、行政との情報共有を大切にしながら、民間団体として、行政の枠を飛び越えて柔軟に活動を展開できる強みを生かし、地域の多様な団体や個人と連携することで課題解決に向けた活動を展開している。



特定の人に特定の場や関係性を提供するのではなく、既存の様々な主体が自分たちに来ることを創造し、人の力を借りながらも実行しあえるように、お互いの顔が見える関係性を構築しようとしているのがこのプロジェクトの特徴です。

とよた多世代参加支援プロジェクト
事務局 栗本浩一様

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	7/23(火) 17:30-19:15	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、小田、 山崎
2	9/5(木) 14:00-15:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
3	9/30(月) 13:00-14:00	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
4	10/24(木) 9:00-9:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
		豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	
5	10/28(月) 13:00-14:00	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
		株式会社カヤック	佐伯様	
6	10/31(木) 11:00-12:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様、宮口様、妻木様	生駒、橘、山崎
7	11/28(木) 17:30-18:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
8	1/16(木) 15:00-15:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、橘、山崎
9	2/5(水) 17:30-18:00	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	山崎
10	2/12(水) 13:00-14:30	豊田市 福祉部 よりそい支援課	畠中様	生駒、山崎

自治体による従前からの取組

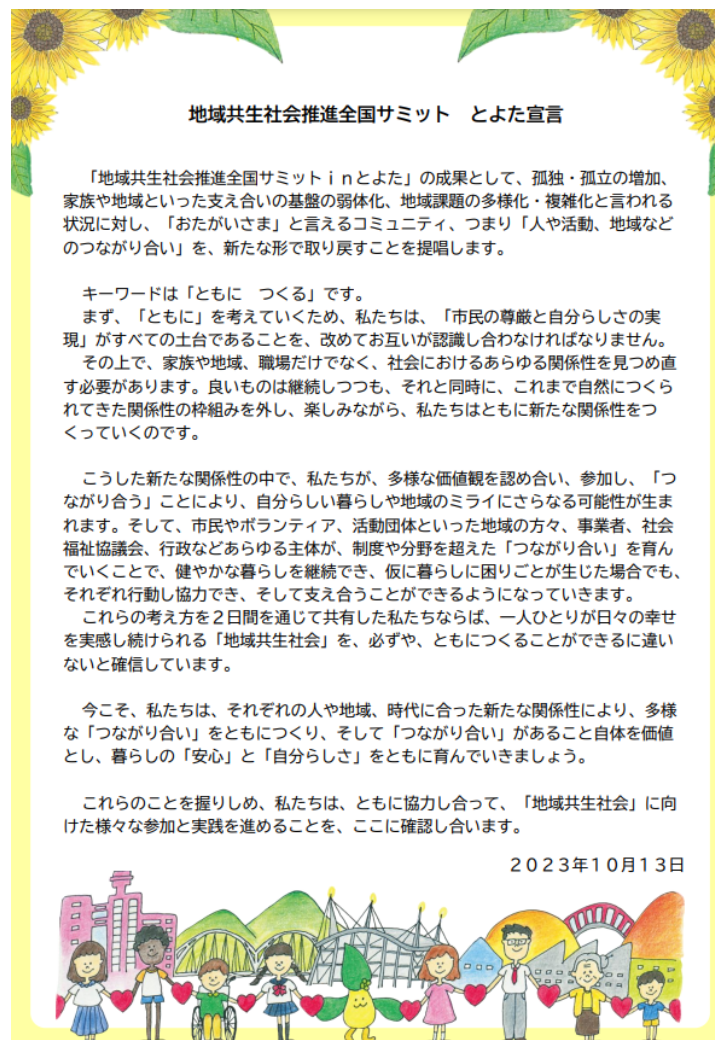
■ 「地域共生社会推進全国サミット とよた宣言」の提唱

(取組概要)

令和5年度に開催された「地域共生社会推進全国サミット in とよた」において、その成果として「地域共生社会推進全国サミット とよた宣言」(以下、「とよた宣言」)を提唱した。とよた宣言は、「地域共生社会の推進に向けた考え」として発信された宣言であり、その中で「孤独・孤立の増加」という地域の状況にも言及している。

孤独・孤立を含む地域課題の打破に向けて、「『おたがいさま』と言えるコミュニティ、つまり「人や活動、地域などのつながり合い」を、新たな形で取り戻すこと」を提唱しており、孤独・孤立対策を含む豊田市の地域づくりの考え方の基礎となっている。

図表 「地域共生社会推進全国サミット とよた宣言」



出所)豊田市 HP「豊田市における地域共生社会を推進する取組について」

■ 「身寄りを頼ることができない方に対する支援のレシピ集」の作成

（取組概要）

「企業城下町」である豊田市には、「身寄りを頼ることができない人」が多い。豊田市ではそうした人々への支援の在り方について検討し、国から出ている「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」や「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の既存のガイドラインをもとに、豊田市ならではの地域の情報や、支援のコツ、ノウハウを踏まえて取りまとめた「支援のレシピ集」を作成した。

「支援のレシピ集」は、「身寄りを頼ることができない方に対する支援のレシピ集＜救急搬送編＞」と「身寄りを頼ることができない方に対する支援のレシピ集＜死後事務編＞」の2つからなり、身寄りを頼れない人も、「安心な暮らし」が得られるような地域共生社会を目指すものである。（詳細は、豊田市 HP を参照されたい。）

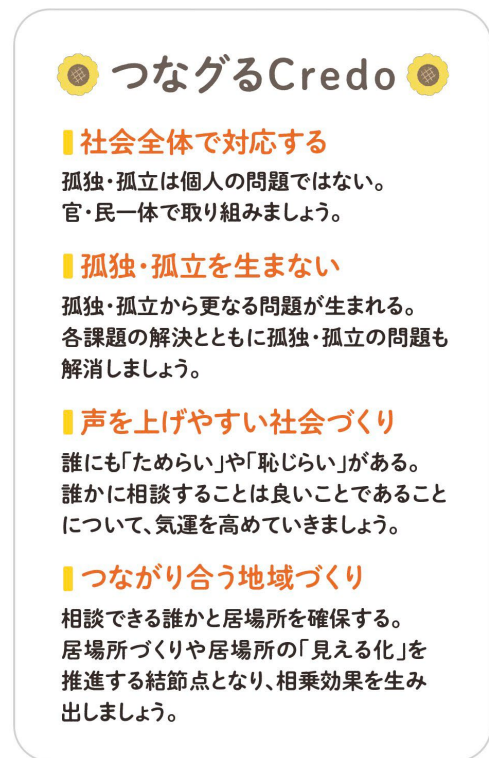
試行的事業	
① 職員の理解促進と庁内連携促進のための広報物作成	
概要	全庁的に各課がそれぞれの取組に孤独・孤立対策の視点を入れて、各自の業務に取り組むことを推進するため、豊田市の孤独・孤立対策基本方針の心構えを記載した「つなぐるCredo」を作成し、全職員に配布した。
ねらい	「つなぐるCredo」の配布にあたっては、ただ広報物を配布するのではなく、庁内の部長会議で、改めて「孤独・孤立とは何か」ということや、豊田市の孤独・孤立対策について説明し、孤独・孤立に関する全職員の基礎的理解を促すことを目指した。
工夫点	普段、「孤独・孤立対策」というテーマを直接的に意識することがないような福祉関係以外の職員にも広く周知するため、手軽に携帯してもらえるようなカードサイズとした。
結果	庁内の部長会議にて趣旨を説明し、全職員 6,200 名に配布・携帯を依頼した。また、多数の職員から「趣旨を理解し、つなぐるCredoを持ち歩いている」という回答を得た。

図表「つなぐるCredo」

表



裏



② 孤独・孤立に関する理解促進ツールの企画・制作	
概要	孤独・孤立に関する理解を促進するためのツールとして、老若男女が楽しみながら孤独・孤立について学ぶことができる「孤独・孤立の当事者体験カードゲーム」(名称:「コドクエ」)を制作した。
ねらい	今後、豊田市で「つながりづくり」に当たり前に取り組んでいる人を増やすため、堅苦しい形ではなく、あくまで「自然に」「楽しく」孤独・孤立を学べるツールとなることを目指した。
工夫点	- ゼロから孤独・孤立のカードゲームを制作するにあたって、関心を持ってくれた市民や地域の関係者を集めた意見交換会・テストプレイを実施し、試作品を都度ブラッシュアップした。 - 親しみを持ってもらえるよう、「豊田市民なら分かる」施設名や地名などのローカルなキーワードを織り交ぜた。
結果	制作を通して豊田市の孤独・孤立の地域課題や、アプローチすべき住民像に関する共通認識が参加者間で醸成され、より豊田市の実情をローカライズしたカードゲームが完成した。

(企画・制作の背景・経緯)

豊田市民に広く孤独・孤立について知ってもらうために、だれでも孤独・孤立の状態になりえる可能性があることや、豊田市に存在する多くの資源を活用して「小さなつながり」を増やすことが大切であることを、「楽しく」市民に知ってもらうことを重視し、その手段として「カードゲーム」を制作・活用することを考案した。

ゼロからの制作にあたっては、シティプロモーションやゲーム制作に専門性を持つ株式会社カヤックと、豊田市での当事者支援団体や地域づくり活動に知見を持つ合同会社なんつなが、「共同制作」という形でタッグを組み、豊田市よりそい支援課と協議しながら、孤独・孤立の当事者体験ができるカードゲームを制作した。

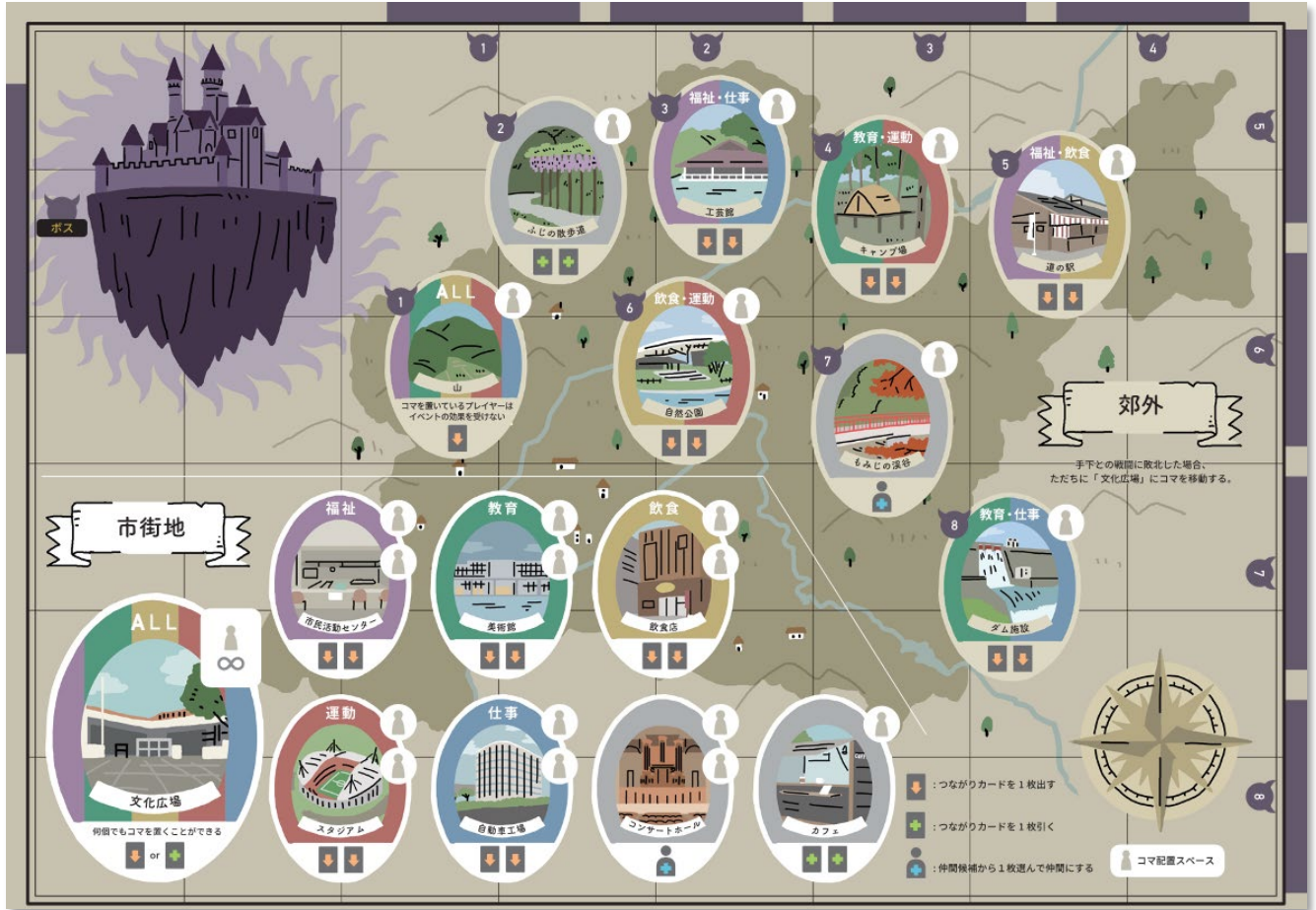
図表 完成した「コドクエ」のあらすじ

プレイヤーは啓示を受けた勇者として、とある異世界の国「トヨタース」に現れた魔王に立ち向かおうとします。世界が滅びるまではあつとわすか。限られた時間の中で、勇者たちは協力してその大業を成し遂げなければなりません。 しかし、彼らは毎日忙しく仕事に励んで家と会社を往復するだけの日々を送るサラリーマンや、歳をとって家にこもりがちな老人など、他者とのつながりが少ない者ばかり。各個の力では、そのようなことは不可能です。彼らはまず、自分にあったコミュニティなどをつながりをもつことで、仲間を集めなければなりません。 そう、ここは異世界。戦士や射手、僧侶や魔法使いといったスキルをもつ者たちがたくさんいます。彼らと知り合い、魔王を倒すための準備を進めましょう。ただし、降りかかるイベントなどで仲間たちは容易に失われる可能性があります。多くのコミュニティと連携し、自らが孤独にならないように工夫を続けなければなりません。そしてなんと、それは魔王にとっても同じことです。根城にこもる彼らも、プレイヤーが障害を乗り越えるたび、手下を失ったり、健康を損なったりして弱体化していきます。勇者たちは魔王を弱体化させて討伐を成功させ、トヨタースの救世主となることができるでしょうか。	
---	--

図表 完成したカードゲーム

※以降の画像は、本試行的事業後に、豊田市別事業にて「デザイン」を行ったものである。

<勇者たちが移動するマップ>



- 各プレイヤーが仲間を増やしながら「魔王コドーク」を倒しに行く、プレイヤー協力型のゲームとして完成した。マップには豊田市に実在する地名や施設名がちりばめられている。

<主人公カード>





- 各プレイヤーは主人公(勇者)のカードを1枚ずつ保有する。勇者の仲間が増えると、「悩んでいる顔」から「笑顔」のカードに変化し、戦闘力も強力になる。主人公はシニアからヤング世代(学生・青年)まで様々で、属性に応じて性格や能力も異なる。

<コンタクトカード>



- 各主人公(勇者)が、仲間を増やすことができるカード。実際のつながりの形が多様であるように、ゲームでも「SNS 交流」や「工芸体験」など多数の種類が用意されている。

<コミュニティカード>



- 「居酒屋の常連仲間」や「勉強仲間」として、つながりを形成することで、仲間を失うイベント(「転勤」などの孤独・孤立に陥りやすいライフイベント等)が発生しても守ることができる。

<完成したゲームの全体像のイメージ>

※本試行的事業終了後に、豊田市別事業にてデザインを実施した状態の全体像イメージ



カードをプレイヤー間で募集したり、譲り合ったりすることができるので、協力して魔王を倒しに行く道のりで自然とプレイヤー間で会話が発生する仕掛けである。

(カードゲームのブラッシュアップの流れ)

まずは地域の福祉関係者へのヒアリングを通して、カードゲームによって市民にどのようなメッセージを伝えていくか整理した。その後、カードゲームの試作品に関する意見交換会やテストプレイを下記の要領で実施した。

図表 意見交換会およびテストプレイの開催概要

カードゲーム制作に関連するイベント	開催概要	
意見交換会 #1	✓ 開催日時	10月26日（土）18時～21時
	✓ 場所	とよた市民活動センター
	✓ 形式	対面
	✓ 開催趣旨	孤独・孤立の定義や、孤独・孤立を感じるとき、または解消する手段などについて、当事者や支援者等と意見交換を行った
	✓ 参加者	20名ほど
意見交換 #2	✓ 開催日時	11月17日（日）18時～20時
	✓ 場所	とよた市民活動センター
	✓ 形式	対面
	✓ 開催趣旨	複数のゲーム企画案をもとに、地域性を中心とした楽しめる要素と、消極的な表現を中心とした排除した方がよい要素等について検討した
	✓ 参加者	20名ほど
テストプレイ	✓ 開催日時	1月23日（木）18時～20時
	✓ 場所	とよた市民活動センター
	✓ 形式	対面
	✓ 開催趣旨	ゲームのラフ案をもとに、孤独・孤立を学ぶためのゲームとしてコンセプトが適切か、想定するプレイヤーにとって難易度が適切か、等について検討した
	✓ 参加者	20名ほど

各会の参加者の属性としては、社会福祉協議会職員などの福祉関係者や、ひきこもり経験者等の当事者、そのほか市民活動に積極的な人、不登校児を持つ親の支援活動をしている人、株式会社カヤックを知っていてゲーム自体に興味を持ってくれた人等、様々なバックグラウンドを持つ人が集まった。

参加者からは、「プレイヤー同士で対戦する形よりも、協力して魔王を倒しに行くことで、プレイヤー同士のつながりづくりになる」や「仲間がいないと魔王たちに勝てない難易度が、自然と孤独からの脱却につながる」といったゲームのコンセプトや難易度などに関する意見から、「途中で仲間を失う展開は寂しさを感じるが、孤独・孤立の当事者体験にはなる」、「豊田市を舞台にしていることがもっとわかる方が良い」などの、孤独・孤立の理解を促すツール・身近な人と楽しみながら学ぶためのゲームとして改善すべき点が挙がった。こうした市民の「生の声」を適宜カードゲームに反映させ、より豊田市の実情や市民の感覚に寄り添ったゲームとなるよう、繰り返しブラッシュアップを図った。

③ 孤独・孤立に関する理解促進イベントの開催	
概要	完成したカードゲームを活用して、①職員向け研修での周知啓発、②市民向けの孤独・孤立に関する理解促進イベントを開催した。
ねらい	カードゲームをきっかけとして、まずは孤独・孤立について認知してもらい、「自分の普段の活動や行動が、実は孤独・孤立対策・つながりづくりにつながっている」という気付きを得てもらうことを目指した
工夫点	ゲーム中にプレイヤー同士で持ち札をやり取りする展開などを通して、知らない人とも自然と会話し、ゲームへの参加自体が小さなつながりの形成につながるよう設計した
結果	①には約 30 名、②には 19 名の市民が参加した。 ②の参加者の約78%が「ゲームでのつながりづくりの体験を通して、つながり方の理解ができた」と回答した。

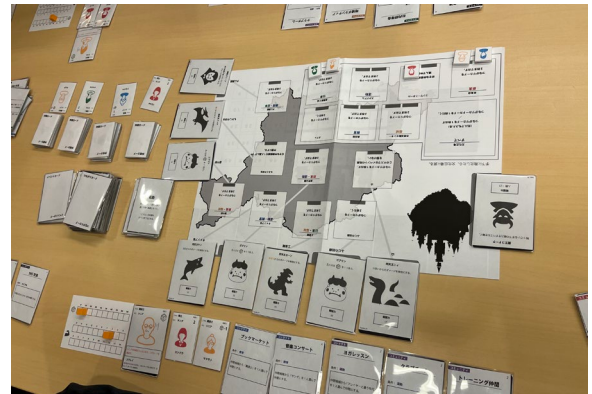
①職員向け研修での周知啓発、②市民向けの孤独・孤立に関する理解促進イベントでは、多数の職員・市民がカードゲームを楽しむ様子が見られ、ゲーム中の会話などから「つながり」や「コミュニティ」の大切さを感じている様子、また仲間を失って「孤独」を実体験する様子が多くなってきた。

また、今後もカードゲームを用いた中長期の普及啓発活動を計画しており、来年度以降も市民向け体験イベント、中学校への出前講座などのイベントを開催する予定である。カードゲームというツールを活用して、普段の生活で孤独・孤立を意識して、豊田市でつながりづくりに取り組む人を徐々に増やしていきたいと考えている。

図表 職員向け研修・市民向けの孤独・孤立に関する理解促進イベントの開催概要

イベント	開催概要	
職員向け研修	✓ 開催日時	2月27日（木）15時～17時
	✓ 場所	豊田市役所 西庁舎 地下食堂
	✓ 形式	対面
	✓ 参加者	30名ほど
市民向けの 孤独・孤立に関する理 解促進イベント	✓ 開催日時	2月27日（木）18時～20時
	✓ 場所	豊田市役所 西庁舎 地下食堂
	✓ 形式	対面
	✓ 参加者	19名

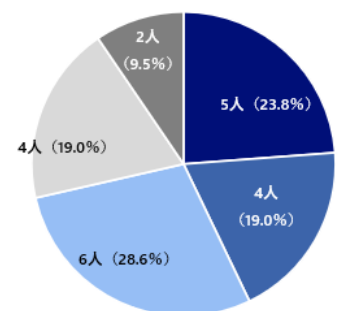
図表 イベント当日の様子



図表 参加者アンケートの結果(※一部抜粋。なお、グラフから回答人数 0 人の項目は除いている。)

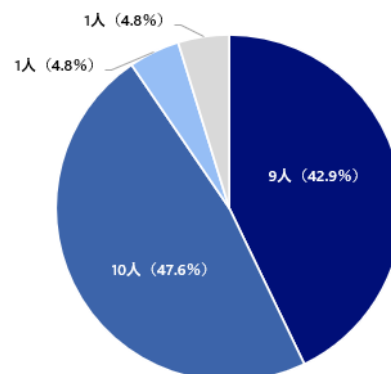
<職員向け研修でのアンケート結果>

質問 5 孤独孤立の体験ができましたか * 複数回答可
(N=21)



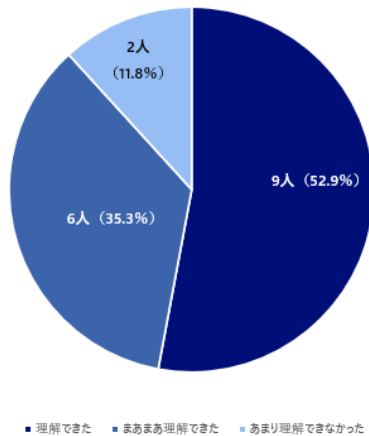
- 自分が寂しい、辛いと感じた
- 他のプレイヤーを寂しそう、辛そうと感じた
- 寂しさや辛さを感じなかったが、孤独孤立について理解が深んだ
- 寂しさや辛さを感じなかった
- わからない

質問 6 ゲーム体験を通して、孤独・孤立の解消を体験できましたか? * 複数回答可 (N=21)



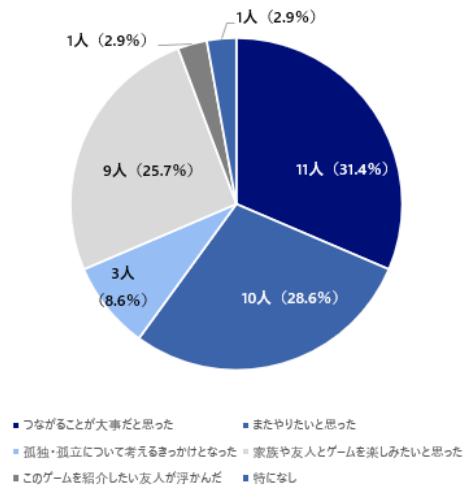
- 仲間がいると寂しさが解消された
- 仲間がいる他のプレイヤーは、寂しくないように見えた
- 孤独・孤立の解消を感じなかった
- わからない

質問7 ゲームでのつながりづくりの体験を通して、つながり方の理解ができましたか？ (N=17)



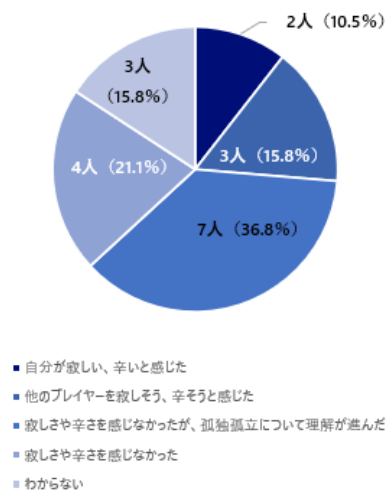
質問8 「ゲーム体験」をして感じたこと、気づいたことなど

* 複数回答可 (N=35)

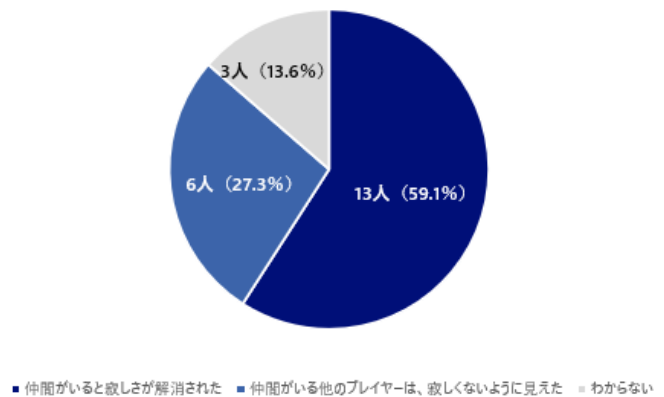


<市民向けアンケートの集計結果>

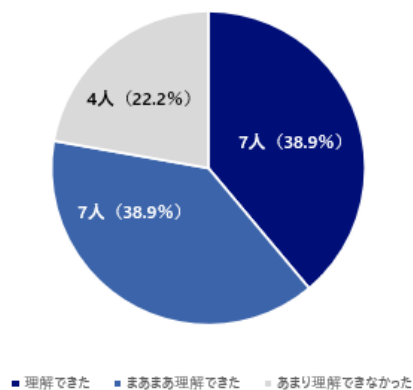
質問3 孤独孤立の体験ができましたか？ * 複数回答可 (N=19)



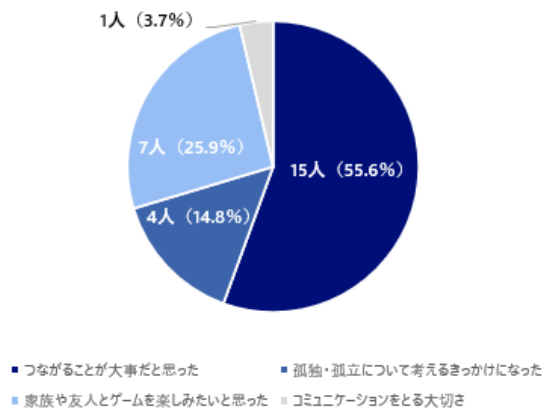
質問4 ゲーム体験を通して、孤独・孤立の解消を体験できましたか？ * 複数回答可 (N=22)



質問5 ゲームでのつながりづくりの体験を通して、つながり方の理解ができましたか？ (N=18)



質問6 「ゲーム体験」をして感じたこと、気づいたことなど * 複数回答可 (N=27)



図表 参加者アンケートで挙げた感想

イベント	参加者アンケートで寄せられた感想（一部抜粋）
職員向け研修	• 誰かがいることの心強さを感じた。誰でも楽しめる楽しいものだった • 小中学生のこどもとやると、盛り上がるし学びの一助となると感じた。 • 仲間が守れた時にうれしかった。初めて会った人と仲良くなれた • 少しルールが難しい部分があったのでこどもがやるならもう少しわかりやすいと思った • シニア世代とプレイしてみたい。いろいろなコミュニティがあると知るきっかけとなった • はじめましての人が仲良くなるのによいと思った（プレイ時間はかかるけど） • ゲーム説明時のマニュアルがあるとよい。イベントによる仲間を失う経験が少なく、ゲームがうまい人ほど、孤立への理解は難しい。
市民向けの 孤独・孤立に関する理解促進 イベント	• コミュニティの大切さを感じました • 前回と違って協力プレイになったことで、カードをあげたり、プレイヤー同士で交流できたのが良かった。 • 回数を重ねないとこのゲームの本質には近づかないと思った • 孤独、孤立に誰もがなりうるということ、つながりを作ることの心強さ、若い世代に楽しみながら感じてほしいので、中学校や高校の授業で取り入れてほしい。 • 難易度が調節できるのが、いいところだと思いました。 • ゲーム参加者と協力してクリアしていくことで、つながりの大切さがわかった。 • 前回の先行会にも参加をしたが、1ターン目はやはり難しいと思いました。私自身、この会を通じて知り合いができてとても嬉しく思っています。このゲームが知り合いだけでなく、見知らぬ誰かとプレイできる場があれば居場所の1つになるのではないかと思います。 • 一緒にやっているチームの1人が孤独になったりした時に、『孤独を感じた』というアクションというか孤独を目立たせる何かがあると、もっと孤独に注目がいくのかなと思います。孤独になったメンバーがいた時に、メンバーの孤独感をチームで一緒に感じられたら良いのかなと思います。

④「豊田市デイズ」への記事広告出稿	
概要	豊田市で普及している雑誌「豊田市デイズ」に、豊田市の孤独・孤立対策や福祉施策に関する記事広告を4ページ出稿し、掲載ページを抜き刷りして設置・配布した。
ねらい	孤独・孤立について学べるカードゲームの存在や、市民同士の交流・学び合いの場である「空想ファクトリー」について周知することで、「楽しくつながる」ことを印象付けることを目指した。
工夫点	市内の支援・相談機関の情報などを充実させつつ、「どんな困りごとであっても、まずは相談してほしい」という豊田市のメッセージを端的に伝えることを意識した。
結果	孤独・孤立対策を含む豊田市の福祉政策全般について、改めて情報を整理した。その結果、「重層的支援体制事業」やその他福祉制度・サービスのような、一般の市民向けの説明が難しい行政の取り組みについて、わかりやすく言語化することができた。

主に下記の内容を掲載し、一般の市民向けに、豊田市の取り組みやビジョンをわかりやすく発信した。

特に重層的支援体制事業などの既存の福祉制度について、記事という形でアウトプットすることで、豊田市の制度やサービスの情報を棚卸し、対外発信する際の材料としても今後活用できるような形にすることができた。今回の制作において言語化した内容を、市民への説明や庁内での共通認識を深める際にも引き続き活用していく予定である。

図表 掲載概要

主題	概要
①豊田市が目指す地域共生社会のビジョン	✓ 豊田市が「安心して自分らしく暮らせる、支え合いのまち」を目指し、地域共生型社会システムの構築に取り組んでいること ✓ 「重層的支援体制」を整備し、多様化する市民の困りごとに対応する包括的なサポートシステムを構築していること ✓ 各地域に相談窓口を設置し、どの窓口でも適切な支援につながる仕組みを提供していること
②相談窓口の役割と具体的な支援窓口の紹介	✓ つながりを作る＝「つなぐる」を合言葉に、どんな困りごとにも身近な相談窓口にまずは相談してほしいということ ✓ 相談窓口の機能、利用することのメリット、早期の相談の重要性 ✓ その他、悩みの種類に応じた相談窓口のリストを具体的に掲載
③「楽しみながら」つながりを築くためのイベントやツール	✓ 仮定の豊田市を舞台に孤独・孤立の当事者意識を体感しながら、つながりの大切さを楽しく学んでもらうボードゲームの存在。今後の展開予定 ✓ つながりづくりを促すイベントである「空想ファクトリー」の紹介

図表 実際に「豊田市デイズ」に掲載された記事(4 ページ)

豊田市が目指す地域共生

不安や悩みを相談できる 暮らしの安心を支える窓口

地域と連携した多角的な支援で暮らしをサポートする仕組みを整えている豊田市。
悩みや不安を抱えた人に、そっと寄り添う心強いセーフティネットだ。
豊田市は「安心して自分らしく暮らせる。支え合いのまち」を目指して、
地域共生型社会システムの構築に取り組んでいる。



安心して暮らしていきたい

生きがいを
見つけたい

地域と
つながりを
持ちたい

重層的支援体制

多様化する社会のニーズに応え、市民が直面するさまざまな困りごとや課題に対応するため、行政・地域・福祉団体などが一体となって設計された包括的なサポートシステム。どこに相談しても支援につながる包括的な相談窓口を各地域に設置している。

相談内容に応じて
多機関連携で対応

子育て・就労、引っ越し、育児、介護など、環境やライフステージが変わったときは、誰しも自然とした不安を感じるもの。家族や友人といった近しい人には言いにくい悩みを一人で抱えることもあるだろう。自分の弱みだけではなく、「近所の人困っている様子で気がかりだけれど、声をかけていいものなのか判断がつかない」といった経験がある人も多いのではないだろうか。

あらゆる人に起こり得る「孤独・孤立」対策のために、豊田市は2024年4月に「よりよい支援」を発足した。同課では、多様化する市民の困りごとに対応するための総合的なサポートシステムとして、行政内外の機関・福祉団体、地域コミュニティなどと連携し、どの窓口に訪れても適切な支援につながる「重層的支援体制」を構築。各地域に相談窓口を設置し、属性や世代を問わず気軽にアクセスできる体制を整備した。年間80件を超える相談が寄せられ、精神的なサポートや地域でのつながりの創出も含めた具体的な支援へと導いてきた。

心の病気や障がいに関する悩み

悩み	相談先
心の病気やその家族による相談	豊田市役所保健支援課 ☎ 0565-34-6855 平日 8:30~17:15 ●保健師 ●心理士 ●カウンセラー ●精神科医師 ●薬剤師 ●心理師(個別面接) ●助産師
障がいに関する相談	豊田市障がい者相談支援事業所 ☎ 0565-34-6751 (障がい福祉課) 原則平日 9:30~17:15 ※事業所により開庁する日、曜日が異なります。

お金や就労に関する悩み

悩み	相談先
お金に関する相談	豊田市社会福祉協議会 ☎ 0565-34-1132 火~土曜日 8:30~17:15
就労に関する相談	豊田市就労支援室 ☎ 0565-31-1330 月3回 14:00~16:50 ※要予約

高齢者や介護に関する悩み

悩み	相談先
高齢者や介護に関する相談	豊田市地域包括支援センター ☎ 0565-34-6984 (高齢福祉課) ●地域包括支援センターごとに異なるため、高齢福祉課に確認

生きがいや居場所に関する悩み

悩み	相談先
市民活動に関する相談	とよた市民活動センター ☎ 0565-36-1730 月・水~日曜日 10:00~18:00
ボランティア活動に関する相談	豊田市社会福祉協議会 ☎ 0565-31-1294 火~土曜日 8:30~17:15

つながりを作る合言葉「つながる」 困ったときに頼れる窓口

多様な悩みに対応する相談窓口が、豊田市内各所に設置されている。暮らしの中で生じる不安や困りごとを解決する第一歩として、まずは相談してみよう。孤独・孤立や不安を感じたときに頼れる存在があることが、心の拠り所となる。



寂しさや不安を感じる・相談先がわからない

悩み	相談先
相談先がわからない場合の相談	豊田市役所よりそい支援課 ☎ 0565-34-6791 平日 8:30~17:15
生活上の悩み相談	豊田市役所市民相談課 ☎ 0565-34-6626 月曜日 13:00~16:00 (特設単位) 金曜日 9:00~12:00 (特設単位) ※要予約(生活福祉課相談員担当)
生活上の様々な悩み相談 (家庭・職場の人間関係や性被害など)	女性のための電話相談室 クローバーコール ☎ 0565-33-9680 火~木・金・土曜日 10:00~16:00 金曜日 10:00~13:00 16:00~19:00 ※要予約(要予約) 男性のための電話相談室 メンズコールとよた ☎ 0565-37-0034 毎月第2、第4金曜日 18:00~20:00

子ども・若者に関する悩み

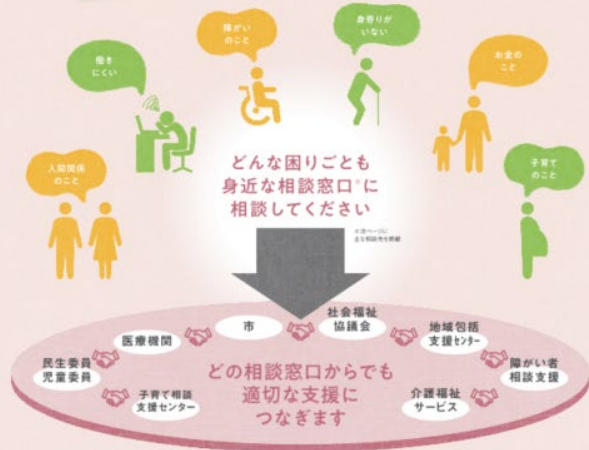
悩み	相談先
子どものいる家庭に関する相談	豊田市役所子ども家庭課 ☎ 0565-35-1152 平日 9:00~17:15 ※要予約(要予約)
ひきこもりや不登校に関する相談	子ども・若者総合相談センター RePPO-リッポ ☎ 0565-33-1533 火~土曜日 9:00~17:00 ※要予約、お申し込みは2週間前
子育てや子ども、若者自身の悩み相談	青少年相談センター・バルク豊田 ☎ 0565-33-9955 月~土曜日 9:00~17:00 ※要予約

どの窓口でもOK!
最適な支援へ導きます



まずは話してみることで 一歩を踏み出す きっかけに

どんな悩みごとでも、解決の糸口は見つかるもの。豊田市の連携的支援体制は、複雑に絡み合った問題を整理しながら、最適な解決策を一緒に探していく。頼もしい存在だ。気軽に話をしてみるだけで心が軽くなり、前向きな一歩を踏み出せるだろう。



早めの相談が
解決への近道に

困りごとや悩みごととは、様々な課題が複合的に絡み合っていることが多く、それを一人で整理し、進めようとするのは、とても大変な作業です。一人で悩まず、まずは誰かに話を聞いてもらい、自分の状況を整理し、解決策を探る。それが、一歩を踏み出すきっかけになります。

「一人では解決できない」と、無自覚に悩んでいる状態が、解決の糸口を見えなくなってしまうことがあります。早い段階で専門家に相談することで、問題を整理され、新たな視点で自分らしい道を切り拓くことができるはずです。

どの窓口でも頼りになるので、自分を追い込む前に、まずは話を聞いてもらい、自分の状況を整理したい。困りごとの相談が、プレッシャーでもなくなるので安心して相談できると、今はまだ不安なままでも、「困ったときに頼れる場所がある」という安心感は、日々の暮らしを支える大きな力となってくれます。

*多様な相談窓口の存在が、2019年～2021年度に拡大しています。



⑤孤独・孤立に関する普及啓発チラシ配布	
概要	市民向けの周知啓発として、孤独・孤立に関係する悩みに応じた豊田市内の相談機関を一覧化したチラシを作成した。
ねらい	重層の「支援会議定例会」等で協議・情報を整理し、現在支援を必要としている人や、潜在的に支援が必要になる可能性がある人に、適切な支援先や相談窓口をわかりやすく周知することを目指した。
工夫点	市民向けの広報物であること、そして孤独や孤立に悩む人が気軽に手に取れることを大切に考え、「温かさ」や「親しみやすさ」を感じられるデザインに仕上げた。
結果	重層の「支援会議定例会」参加団体や市内の支援機関等の協力を得て、2箇所各100部を設置・配布した。引き続き、個人宅への訪問事業と連携した配布を調整予定。

チラシの読者の対象については、特定の対象に絞らず、様々なバックグラウンドや悩みごとを抱える人を対象とした。また、悩みごとや困りごとの種類に応じて、適切な相談先をたどることができるよう、分類項目を示しながら相談先へと誘導する構成とした。

図表 制作したチラシ

ひきこもり

お金・就労

子育て

人間関係

身近にこんな悩みを抱えている人はいませんか？

病気・障がい

生きがい、居場所

高齢者・介護

その他

孤独・孤立は誰にでも起こり得ます。ためらわずに相談してください。

チラシに関するお問い合わせ：豊田市よりそい支援課 電話34-6791

相談先一覧				
(多くの相談機関があるため、ここには一部を掲載しています。)				
大分類	小分類	相談先	とき	電話番号
 暮らしや不安を感じる人、相談先がわからない人	相談先がわからない場合の相談	豊田市役所 よりそい支援課	平日 8:30～17:15	34-6791
	生活上の悩み相談 (人権・税・相談・年金等)	豊田市役所 市民相談課	月曜日 13:00～16:00 (1時間単位) 金曜日 9:00～12:00 (1時間単位) ※要予約(元家庭裁判所調停委員)	34-6626
	生活上の様々な悩み相談(夫婦関係、家庭や職場の対人関係など)	女性のための電話相談室クローバーコール 男性のための電話相談室メンズコールとよた	火・水・金・土曜日 10:00～16:00 水曜日 10:00～13:00・16:00～19:00※直接相談有(要予約) 毎月第2、第4金曜日 18:00～20:00	33-9680 37-0034
	こどものいる家庭やこども、若者に 関する悩みがある人	こどものいる家庭に関する相談	豊田市役所 こども相談課	平日 9:00～17:15 ※家庭児童相談室
 心の病気や障がいに関する悩みがある人、またはその家族	ひきこもりや不登校に関する相談	こども・若者総合相談センター RePPO-リッぽ	火～土曜日 9:00～18:00 ※要予約、小学生から39歳まで	33-1533
	不登校、いじめ、発達などの相談	青少年相談センター パルクとよた	月～土曜日 9:00～17:00 ※要予約、小学生から18歳未満の青少年及びその保護者・家族	33-9955
	心の病気やその家族による相談	豊田市役所 保健支援課	平日 8:30～17:15 ※保健師 ※来所は要予約 ※精神科医師 ※要予約 ※心理職員(個別面談)※要予約	34-6855
	障がいに関する相談	豊田市障がい者相談支援事業所	原則平日 8:30～17:15 ※事業所により異なるため、障がい福祉課に確認	34-6751 障がい福祉課
 お金や就労に関することで悩みがある人	お金に関する相談	豊田市 社会福祉協議会	火～土曜日 8:30～17:15	34-1132
	就労に関する相談	豊田市 就労支援室	月3回 14:00～16:50 ※要予約	31-1330
	高齢者や介護に関する相談	豊田地域包括支援センター	地域包括支援センターごとに異なるため、高齢福祉課に確認	34-6984 高齢福祉課
	いきがいや居場所を求めている人	市民活動に関する相談	とよた市民活動センター	月、水～日曜日 10:00～18:00
	ボランティア活動に関する相談	豊田市 社会福祉協議会	火～土曜日 8:30～17:15	31-1294